

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. 120

エントリー学校名：福井県勝山市立村岡小学校

活動名：組織力向上と教師力向上 ～温かい学校・授業づくりをめざして～

解決すべき課題：

1. 地域が学校に対して大変協力的でニーズも高い。一方で学校は若年化や、働き方改革による行事の見直し、「例年通り」と活動がマンネリ化しており、地域と学校との間にギャップが生じ始めている。
2. 若い教員が多く、授業力をはじめとした教師としての力量の向上が必要である。

目標・方針：

- <目標>
1. 学校としての組織力を高め、また職員室に話しやすい雰囲気を作り出す。また、学校や子どもたちのことを多面的にとらえる機会を増やす。
 2. 過去に培ってきた実践をもとに、めあてと振り返りにフォーカスした授業づくりに全職員で取り組み、子どもの思考の流れを大切にしたい対話的な授業づくりを目指す。
- <方針>
1. スクールプランの共有や全国学力学習状況調査の結果などの分析をきっかけとして、全職員が同じ方向性と同一ゴールを目指し活動したり話したりする基礎を作り、それぞれの職員の活動が離散的にならないようにする。また、異動してきた教員の声を聴くなどして「例年通り」を見直す機会を大切にする。
 2. お互いの授業を見合い、声をかけあう機会を多くもったり、研修を活用して視野を広げたりする活動に取り組む。

活動内容：

- ①スクールプランの共有や全国学力・学習状況調査の分析とこれからの授業に求められる方向性の共有。
- ②授業研究を通して授業力向上の手立てを考える。
- ③お互いに気軽に授業を見せ合い、客観的な視点も交えて授業について話し合う活動を行う。
- ④実践力向上の取り組みを行い、その共有と継続を行う（年度末にQ & A形式でポイントのみを冊子にしてまとめる）。

活動の成果：

- 授業に対してほとんどの子どもたちが肯定的な反応を示していた。また、多くの保護者が学校に対して「子どもの個性や良さを認めている」「子どもの生活や行動について適切な指導をしている」と感じていた。
- 教員が生徒指導や授業について肯定的な評価をする割合が以前よりも増えた。
- めあてを意識した授業を行うこと、振り返りの型を提示したことで焦点の定まったぶれない振り返りを子どもたちが書くようになった。また、めあてがはっきりしていたことと聞く態度を大切にさせたことで、子どもたちの学習に取り組む態度がさらに良くなった。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- スクールプランの共通理解を図ったり、全国学力・学習状況調査の分析を行ったりすることで、全職員が同じ目的に向かって実践を積み重ねることができた。
- 放課後の職員室の雰囲気が明るく活発になったことで、気軽に子どもたちのためにやってみたくことや削った方がよいことをすぐに取り組むことができた。

○めあてを意識した授業を展開したこと、振り返りの型を提示したこと、子どもたちに聞く態度を大切にさせた結果、対話が活発になり、子どもたち一人一人が考えることが増え、授業態度がさらに良くなった。

①全国学力・学習状況調査の分析とこれからの授業の方向性

学校としての課題：①「自分の考えを書く」②「教科の本質をとらえる」

対策

- ・めあての提示と振り返りの時間を確保する。
振り返りについては発達段階に合わせた型を示す。
- ・聞く態度を重視する
- ・子どもたちが対話する機会を重視し、教科の本質に迫るオープンエンドの「揺さぶり」を絶えず意識して授業を行う
- ・子どもたちの思考の流れに沿った授業づくりを意識する

<振り返りの型（高学年用）>

<振り返り>

- ・今日は〇〇について考えました。
はじめは△△と思っていたけれど、□□という考えを聞いて、〇〇と考え（思）いました。
- ・次に〇〇について考えました。
はじめは△△と思っていたけれど、□□という考えを聞いて、〇〇と考え（思）いました。
- ・もっと〇〇について△△したいです。

②③授業研究とお互いの授業の見せあい



<授業研究の様子>

発達段階に合わせて、めあてと振り返りの方法、よりよい発問を考える。

<お互いに授業を見せあう>

めあての出し方や扱い方、振り返り、授業後に発問の検討を行う。



<授業観察票>

授業を客観的に分析するために作成。授業を観察する人が1つの授業の中で全体指導の時間や子どもの活動時間、考えている時間などを数値化する。また、教師の発問も分析し、子どもの考えをつなげたり深めたりする発問の回数も数値化する。

<使ってみた感想>

- ・1つの授業の中で感覚的に捉えていた「話しすぎ」などが実際に見て分かるようになり、授業の組み立てを振り返ることができた。
- ・「観察票を記録してもらっている」と意識しているだけで授業者自身の小さな揺さぶりの発問や声掛けの質が変わった。他の授業でも発問の内容を瞬間的に意識することが増えた。

学校評価より（図中□は昨年度から上がった項目）

評価項目	ポイント	昨年度
子どもは楽しそうに学校へ通っている	97.7	97.9
楽しくわかりやすい授業づくりに努めている	90.9	92.9
子どもの個性や良さを認めている	96.6	92.8
子どもの生活や行動について適切な指導をしている	96.6	92.9
子どもの話を聞いたり相談のってくれたりしている	94.9	91.7

※ポイントについてはA（そう思う）とB（ややそう思う）の割合の合計

評価項目	ポイント	昨年度
（スクールプランについて） 「めざす児童像・指標」を目指した実践の工夫ができた	1.9	1.5
（授業について） めあてを提示して授業をした	1.9	1.8
子どもに聞くことを意識付けられた	1.9	1.0
一人一人をよく観察してはめた	1.6	0.9
振り返りの工夫を行えた	1.5	0.2
（生徒指導） 児童の悩みに耳を傾けるように工夫・努力した	2.0	1.6
（特別活動） 行事では児童の自立能力を育てる運営ができた	1.7	1.3
朝の会や昼の会など子どもが主体的に活動していた	1.8	1.2

※ポイントについてはA（そう思う）を2点、B（ややそう思う）を1点、C（あまりそう思わない）を-1点、D（全くそう思わない）を-2点として平均をとったものである。